

～ 150 の施設があった。場所は平壤北方、順安空港から平壤市内に向かう道から 1 キロも離れていない。

安氏はこの日、退屈なので練習用の通信器材を持ってきて練習しようと、約 6 キロ離れた学校（金正日政治軍事大学）まで歩いて行った。途中病院の道を通っていくと見つかる可能性があると思い、道のないところを通って行った。そこから通常の道を渡って政治軍事大学の方に行こうとしたとき、木の陰にいた古川さんと思われる女性に見られた。あとで通報されるといけないと思い、通報しないように頼もうと思って後ろをつけて行って声をかけた。向き合っていたのは 5 分位だったと記憶している。自分の言葉にうなずいたりしていたが、朝鮮語を理解していないようにも見えた。自分が姿を記憶していたのは金正日政治軍事大学にいたのがほとんど男性で、女性に対しては関心が強かったから。

その女性は入院患者が着る服を着ていた。病院の夕食時間は 7 ～ 8 時だから、おそらく中央病棟に治療に来た帰りではないかと思う。食堂は共通だが食べる場所は厳格に区別されており、お互いが顔を合わせることはない。日本人のいた病棟と自分のいた病棟の距離は 200 ～ 300 メートルで、建物は見えたが人は見えなかった。道は大きく迂回して通っていた。後で看護婦に聞いたら、彼女が日本人で、胃潰瘍で入院していると言っていた。日本人化のための教員であれば、学生に普段接しているから対応にはなれているはずだが、そうは見えなかった。北朝鮮では 60 年代から 70 年代にかけて、「日本革命」をめざしたことがあり、「日本人村」を作ったことがあった。そこにいたのかも知れない。

写真よりも、お姉さんと直接会って確信を持った。あいさつしたときのお姉さんの笑顔と、通報しないように頼んだとき古川さんと思われる女性が見せた笑顔がそっくりだった。

加藤久美子さん（昭和 23-1948 年生・昭和 45-1970 年 8 月 8 日失踪）

1988 年、89 年、90 年、金正日政治軍事大学内で横田めぐみさんと一緒にいた女性だと確信する。金正日政治軍事大学の講堂付近、バス乗り場などで見た。横田めぐみさんと一緒に教官用通路を通って食堂に向かって歩いているところも見た。

当時年齢が 30 代中盤以後に見え、パーマをかけた髪で特別な印象の着衣はなかったものと記憶する。

それより正確に言えば当時彼女達を見たとき写真の女性よりは横田めぐみさんにより関心があり、彼女だけを見ていたので写真の女性については特別な関心はなかった。しかし横田めぐみさんに関心を持って眺めるとき十余回も横田めぐみさんと並んで座って話をしていたのが記憶に残っている。当時彼女は 158 センチ以下の身長だったと記憶している。彼女の職業はもちろん横田めぐみさんをはじめとする大学内の他の日本人と同様で対日工作員に日本語を教える日本語教官だった。

田中実さん（昭和 24-1949 年生・昭和 53-1978 年 6 月 6 日ウィーンに向かって出国し
行方不明）（田中さんについては本日＜注・31 日＞確認）

金正日政治軍事大学にいた日本人男性の一人。当時 43 ～ 44 歳だが髪の毛は真っ白だった。若干頭髪が後退しており、それをカバーするような髪形になっていた。写真と比べると白髪なのと若干頬がこけているがこの顔だった。身長は 165 ～ 167 センチより低かったと思う。このことについては以前テレビの取材を受けたときに伝えたが、相手は「調べて

みる」と言ったきりでその後の対応はなかった。

金正日政治軍事大学で安氏が見た日本人は男性 6 名、女性 5 名の合計 11 名（古川さんは 915 病院での目撃なので含まれない）。その内訳は次の通り。

< 男性 >

蓮池薫・市川修一・田中実と思われる男性・(似顔絵が発表されている北海道の男性)
・(身長 167 ~ 8 センチの男性)・(不明)

< 女性 >

横田めぐみ・増元るみ子・加藤久美子 (一番小柄だった)・(身長 156 ~ 8 センチ程度の女性)・(身長 156 ~ 8 センチ程度の女性)

この他安氏が似た人物を北朝鮮で見た人に松本賢一さん (昭和 11-1936 年 6 月 24 日生・昭和 45-1970 年 6 月失踪) と山田建治さん (昭和 24-1949 年 1 月 22 日生・昭和 54-1979 年 12 月 18 日失踪) がいるが、松本賢一さんの場合は安氏証言の人物と年齢が 10 歳程度合わず、山田さんの場合は身長が約 20 センチ異なる。

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.4.7)

参考情報

連合（日本労働組合総連合会）は本日付けで各地方連合に以下の要請を行いました。現在連合を構成する労働組合の中には拉致問題に熱心な組織と消極的な組織が混在していますが、連合全体として拉致問題に積極的になっていくことは救出運動全体の流れの上でも大変プラスになりますし、消極的な労組の中にいると思われる北朝鮮の工作活動に協力してきた勢力の実態を明らかにしていく（この連合の方針に対する反発の度合いによってある程度関与が推定されると思われるため）意味でも期待が持たれています。

連合発 第 07-01288 号 2003 年 4 月 7 日

地方連合会事務局長殿

日本労働組合総連合会

事務局長 草野忠義

総合組織局長 阿部道郎

連合と朝鮮総連との関係についての要請

03 春季生活闘争の取り組み、大変ごくろうさまです。

さて北朝鮮の核開発や日本人拉致事件、ミサイル問題などで日朝関係はきわめて厳しい状況にあります。こうした問題の解決をはかるため連合は3月10日に開催した臨時三役会で北朝鮮問題についての声明を発表し、在日本朝鮮人総連合会中央本部に対し面会を申し入れました。朝鮮総連を申し入れ先と判断した理由は、東京都が1972年以来、朝鮮総連を北朝鮮の「外交機関」と認めてウィーン条約に基づき税を免除していること、朝鮮総連自身も公館としての役割を果たしていることと認めていることからです。しかし、総連側は(1)在日同胞の組織であり、北朝鮮へのビザ発給はしているが北朝鮮の公館ではない(2)連合声明とは見解の大きな相違がある、との理由で要請そのものを拒否しました。一方、朝鮮総連との関係では現在、いくつかの地方連合会が、相互交流や印刷物の購入などを行っています。連合は、朝鮮総連に対して統一した対応が必要との判断から、4月7日の常任役員会で以下の通り確認しました。つきましては関係地方連合会におかれましては、対応をよろしくお願いいたします。

記

1. 北朝鮮による拉致事件や核兵器開発などの問題が解決しておらず、連合は北朝鮮及び深い関係にある朝鮮総連とは、交流などの関係は持たない。
2. 連合は従来から朝鮮総連とは一切の関わりを持っていない。朝鮮総連と関係がある地方連合会においても、中央に合わせ、当面交流を見合わせるよう要請する。

以上

<参考>

連合発 談話 第 07-00090 号 2003 年 3 月 10 日

各構成組織 事務局長・書記長

各地方連合会 事務局長 様

日本労働組合総連合会
事務局長 草野忠義

北朝鮮問題に対する声明の発表について

連合は昨年 10 月 24 日に「北朝鮮の核兵器開発に断固抗議し、即時中止を求める声明」を、原水禁および核禁会議とともに発表し、また、10 月 28 日には「日朝国交正常化交渉にあたっての連合事務局長談話」を發し、さらに、今年に入ってから 1 月 15 日に、「北朝鮮の NPT 脱退宣言に断固抗議し、即時撤回を求める声明」を同じく 3 組織連名で発表しました。その後、北朝鮮は、原子爆弾製造に必要なプルトニウムの抽出が可能な黒鉛減速炉を再稼働させ、さらには地对艦ミサイルの発射実験を示唆しています。こうした情勢の変化もあり国民の不安は増大しており、連合として改めて次のとおり声明を発表することを確認しました。

記

2003 年 3 月 10 日

北朝鮮問題に対する声明

日本労働組合総連合会

2002 年 10 月、北朝鮮は、1994 年に核開発の凍結を約束した米朝枠組み合意に反し、平壤で行った米朝高官会議の場で、核兵器用の濃縮ウランの開発を秘密裏に進めていることを認めた。また、2003 年 1 月 10 日には核拡散防止条約（NPT）からの脱退を宣言した。

他方、金正日総書記は、2002 年 9 月 17 日の小泉首相との会談の中で、北朝鮮による日本人拉致の事実を認めた。

連合は、唯一の被爆国民の立場から、核兵器・大量破壊兵器はいかなる国であろうと、いかなる理由があろうと認めないということを確認している。さらに、拉致問題は人権侵害、国家主権侵害の最たるものとする。

したがって、連合は以下の通り決議し、関係各国政府に対して働きかけていく。

- (1) 北朝鮮の核拡散防止条約（NPT）からの脱退は、NPT 体制を弱体化させ、朝鮮半島における非核化の流れに逆行し、北東アジアにおける緊張を極度に高めるものであり、断じて許すことはできない。北朝鮮は直ちに NPT に復帰するとともに、核兵器開発を中止するべきである。
- (2) 日本政府は、拉致問題、核開発問題等の解決無しには日朝国交正常化および経済協力はあり得ないとの態度を明確にし、主体的に対応していくべきである。

核開発問題については、国連安全保障理事会に付託され たが、最大の関係国の一つとして米・韓と密接な連携をとり、中・口の協力も求めつつ、核問題の平和的解決を目指し、

積極的な国連外交を展開すべきである。

拉致問題については、拉致被害者の全面的解放と永住帰国や補償問題をはじめ、完全解決に向けた最大限の努力を行うべきである。

以上

<<<<<<<<調査会ニュース>>>>>>>>(2003.4.25)

亡命者情報の積極的調査を政府に要請

調査会では本日代表荒木、専務理事真鍋が内閣府拉致被害者・家族支援室を訪れ以下の要請書を小熊博室長に手渡しました。現在発売されている「フライデー」には先週から引き続き失踪者を見たという北朝鮮亡命者権革氏の証言が掲載されています。この発言の信憑性については今後まだ確認しなければならない点がありますが、権氏以外の亡命者でも拉致被害者に関する情報を持っている人はいると言われており、これらの情報はたとえその一部でも真実である可能性があるなら検証して行く必要があると思います。今回の要請はその趣旨にそって行われたものです。

政府機関のみならず、報道関係各位にもぜひ情報収集へのご協力をお願いする次第です。

< 政府に対する要請文書 >

平成 15 年 4 月 25 日

内閣府拉致被害者・家族支援室殿

警察庁殿

公安調査庁殿

外務省殿

特定失踪者問題調査会

代表 荒木和博

亡命者情報に関する積極的調査の要請

拝啓

平素の拉致問題に関する真摯な取り組みに敬意を表します。

さて、これまで政府は安明進氏や南光植氏ら、北朝鮮で日本人を見たと言っている亡命者に対するインタビューを行って来られましたが、私たちが色々な方面から聞く限り、そのやり方は犯罪捜査の裏付けを取るという発想を超えるものではなく、僅かな情報の中からでも拉致被害者を探し出そうという視点からその活動を行っているとは思えません。横田めぐみさんの事件についても、平成 8 年暮れにその氏名が特定されるはるか前に韓国政府は日本政府に情報を提供していたと言われていています。提供されていた情報があったり、直ぐ手に届くところに情報源があったにもかかわらずそれらを見捨て無視して結果的に拉致被害者を見捨てれば、これは不作為による過失と言っても過言ではありません。

ちょうど本日発売になった週刊誌「フライデー」(平成 15 年 5 月 9 日号)及び先週発行の同誌(5 月 2 日号)に亡命者権革(コン・ヒョク)氏による日本人 7 名の目撃証言が掲載されております。権氏の証言については現時点で内容に若干の疑問点もあり、私たちが各方面に確認作業をしている段階で確実であると断定出来る状況には至っていませんが、これらの情報にご家族は翻弄されており、その一方で政府からの情報がないことに焦りを感じておられます。関係機関の誠実な対応を切にお願いする次第です。

権氏に限らず韓国国内に日本人拉致被害者の情報を持っている亡命者は相当数存在すると言われております。また、単に拉致被害者の情報だけでなく、北朝鮮のどこにどのような施設があるかなどの情報を集積しておくことは北朝鮮の体制崩壊などの混乱時期に被害者を救出するため、あるいは核問題をふくめ日本の安全保障上も極めて緊要であると考えます。

かつて阿南惟茂外務省アジア局長（当時）が「亡命者の証言は信用できない」と言って物議を醸したことがありますが、その亡命者証言は昨年北朝鮮の最高指導者金正日の発言によって裏付けられました。また、曾我ひとみさん母子の失踪を拉致と認識しなかったことは本来関係機関が責任を問われてしかるべき問題であります。政府におかれましては「いかにすれば拉致被害者を特定し、救出できるか」という視点から積極的な情報収集を行われ、可能な限りその情報を国民、とりわけ関係者家族に開示していただきますよう、強く求める次第です。私共と致しましても、微力ながら一層の情報の収集・分析に努力することをお誓い申し上げ、要請に代えさせていただきます。

敬具

- 1、日時 5月8日(木) 正午～午後1時(若干開始・終了時間が前後する可能性がありますのでご了承下さい)
- 2、場所 ホテル三田会館2階富士の間(港区芝2-20 TEL 03-3453-6601)
- 3、参加家族 未定

当日説明会に参加されたご家族の中で取材を受けることを了承された方のみが富士の間で個別に取材を受ける形となります。いわゆる記者会見ではなく、参加されたご家族が富士の間に待機し、それぞれが取材をしていただくようになりますのでご了承下さい。また、こちらからは公開の方でも取材を受けるよう強制することはありませんので、場合によっては参加する家族がほとんどないという可能性もあり得ます。予めご了承下さい。